



## 音声分析技術で貴社をサポート

eVOICEの音声ソリューションは、様々なニーズにお応えします。

# 日本語音声認識AI **Olaris** (オラリス)

独自の音声音響処理、自然言語処理などのAI学習・推論により、コールセンター等の電話環境下でも高い精度結果を得ることができます。

カスタマイズ可能な音声認識AIであり、ご利用頂く各社の顧客属性に合わせた専用モデルを構築してご提供が出来ます。

実際の録音音声や、書き起こされた正解文章などを使ってモデルを学習させることで、顧客独自の性能向上が可能です。

AI電話対応(ボイスボット)システムで、自然な会話で問い合わせ対応や取り次ぎを、生成AIとの連携で可能にします。

Olaris開発元の株式会社PKSHA Infinity(旧:アーニーMLG株式会社)は、日本語最高レベルの音声テキスト化精度を保証しています。

CASE1. 通販コールセンター

精度:80%(初期モデル) → **93%(専用モデル)**

CASE2. 医療カルテ入力

精度:65%(初期モデル) → **92%(専用モデル)**



電話音源など  
音質が低い



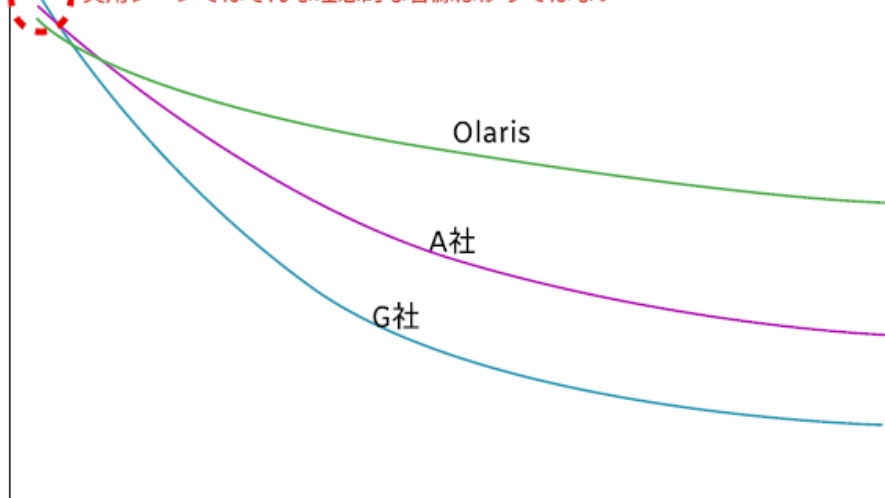
声の大小も  
バラバラ



発話は綺麗  
ではない

精度の高さ

理想的な音源下のみでのMAX精度を競っても、  
実用シーンではそんな理想的な音源ばかりではない



音質・喋り方の質の低さ



# eVOICE (イーボイス)

Voice Solution Technology



# eVOICE

Voice Solution Technology

<https://www.evoice.co.jp>

## 京都大学との共同研究

### ■ 共同研究の目的と背景

これまで、自然な会話に特化した音声認識エンジンを開発して参りました。携帯電話やスマートスピーカー等における機械への発話ではなく、人間同士の会話の認識において精度を出すことは容易ではありません。

データ解析チームがデータの理解と教師データ作成と、モデルの課題発見を行い、エンジニアチームがその課題の解決を行うことで着実に精度を高めて参りました。

音声認識開発チームでは、音声認識エンジンを雑音下の複数話者の対話データ群にフィットさせることをミッションとしています。

この度、音声認識エンジンのレベルアップに向けて、京都大学で大学院情報学研究科長を務める **河原 達也 教授** と共同研究を進める運びとなりました。

### <研究上の課題>

- 話者が複数いる環境での認識精度の向上
- 雑談に近いフランクな対話における認識精度の向上
- プレゼン資料内容など対話環境における言語資源の活用

なお、複数話者に対する音声認識は世界的な課題になります。今回の共同研究は、この課題解決にも結びつくものと考えております。

### ■ 共同研究の体制

京都大学河原研究室、株式会社PKSHA Infinity、ベルフェイス株式会社

## 動作環境・導入方法

日本語音声認識AI『Olaris』は、PKSHA Infinity社の学習成長型AIエンジンです。株式会社eVOICEは、『Olaris』オンプレの提案・導入・保守が行える販売代理企業です。

### ■ 動作環境

OS:Ubuntu、CPU:1多重毎+1スレッド、メモリ:16GB+(1多重毎+4GB)、GPU必要

### ■ 導入方法

リアルタイム / 音声ファイル処理、オンプレミス(自社 / クラウドサービス)

※ 導入方法や料金体系、PoCなど、担当営業までお気軽にご相談ください。

### 【販売、導入・運用サポート、保守・メンテナンス】



## 株式会社 eVOICE

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-12 高山ビル4F  
TEL: (03) 5408-5757 FAX: (03) 6809-1785  
E-mail: sales@evoice.co.jp <https://www.evoice.co.jp>